

モンゴル産ハチミツの生産・品質の向上を目指して ——養蜂振興による所得向上プロジェクト——

JAICAF は本年 4 月より、JICA 草の根技術協力事業の一環として、モンゴルの養蜂振興を目指したプロジェクトを実施しています。

モンゴルのハチミツは蜜源の多くを自然の草花に依存しており、国際的にも高い価値を持つ可能性を秘めています。しかし、日本の水準から見ると蜂群当たりの生産量はまだまだ低く、またハチミツの品質管理体制が整っていないのが現状です。そのためプロジェクトでは、モンゴルの養蜂生産の中心地であるセレンゲ県シャーマル郡を中心に、ハチミツの生産性を高めるための飼育技術や、生産過程での薬剤使用の管理等を養蜂家に指導し、シャーマル郡、ひいてはモンゴル国内のハチミツの生産量と品質を向上させることを目指しています。

養蜂は私たちにハチミツをもたらしてくれるだけでなく、蜂が蜜源としている植物の受粉を促すことで、植物自体の成長を促すという役割も持っています。したがって、養蜂の振興は、自然草地の保全や作物生産の向上にもつながることが期待されます。

プロジェクトは 2018 年 3 月まで 3 年間の実施を予定しています。これまで 4 回に亘り、



今年 8 月にセレンゲ県で行われたセミナー



飼育技術の指導

シャーマル郡やその周辺の養蜂家を訪ねて技術指導や病虫害の発生状況の確認を行ったほか、ウランバートル市内やセレンゲ県庁で、養蜂に関するセミナーを実施しました。セミナーにはこれまでに合わせて 170 名近くの参加があり、養蜂技術に対する養蜂家の方々の関心の高さが窺えました。

プロジェクトではこのほか、養蜂に関する技術情報をモンゴル国内に発信するため、技術マニュアルや、モンゴル養蜂協会の会報誌を通じた情報提供を定期的に行ってい

ます（本記事も会報誌 10 月号に掲載される予定）。

今後は、越冬に向けた飼育技術の指導や、生産工程管理の体制づくり、蜜源植物の調査などを引き続き行っていく予定です。

(2015 年 10 月 22 更新)